片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL　0258-84-3246
FAX　0258-84-2632
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱

題字　黒崎敬湶氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

左岸片貝生産組合が快挙
農水省の農産園芸局長賞受賞
転作の大豆作付が評価さる

JA片貝町管内の左岸片貝生産組合がこの程、農林水産省農産園芸局長賞を受賞した。3月29日㈬金沢市の北陸農政局で行われた表彰式には組合員百十三名を代表して、吉井熊太郎組合長が出席して栄えある局長賞を受賞した。

左岸片貝生産組合は昭和58年設立した組合で現在構成組合員は百十三名で、一昨年の平成10年11月には、集団組織の部で日本農業賞を受賞している。同組合は早くから、米の生産調整に転作作物として大豆の作付に取り組み、農業体系の確立に努力していることが認められ今回の受賞となった。

吉井組合長は「組合員全員の努力の積み重ねによる受賞ですので、組合員の皆さんやJA片貝町とも相談して、近日中に祝賀会を行いたいと思っております」と喜びを語っていた。

友田氏女性管理職
新野氏係長昇任
市の人事異動

市の人事異動がこのほど4月1日付で発令された。

片貝支所も2名が入れ替った。また、片貝町からの唯一の管理職、小宮治郎議会事務局長（一之町）が定年退職し、これで管理職がいなくなるかと思われていたが、友田ムツ子氏（四之町）が市民生活課長補佐に昇任した。片貝保育園長も交替した。以下敬称略。

＝片貝支所＝

▽着任＝牛木芳明（市民生活課）、篠田優子（税務課）▽転出＝新野弘幸（図書館係長＝昇任）、佐藤愛子（退職）

＝片貝保育園＝

▽着任＝佐藤有為子（北保育園長）、▽転出＝松村雅子（北保育園）

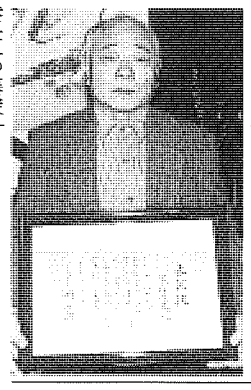
新企画「おぢや酒談義」
4月29日　忍字亭で

片貝公民館と小千谷市杜氏組合では、4月29日㈯午後1時30分から、けやき園忍字亭で開催する、「おぢや杜氏の酒談義」の参加者を一人二千円で五十名募集している。

この催しは、毎年全国各地の酒蔵に出かけ、卓越した技術で酒を造り続けている、おぢや杜氏の造った酒を囲んでの談義。なお、当日は全国良寛会参与の駒谷正雄氏による「良寛も楽しんだ佐藤家の粟守酒」と題しての講演。「おぢや杜氏自慢の酒」のきき酒体験や杜氏との交流会。また、江戸時代県内最大の酒造量を誇った佐藤家の歴史展など盛り沢山。担当者は「満20歳以上で参加希望の方は4月17日㈪まで申し込みして下さい。参加者が50名以上の場合は抽選を行い、結果をお知らせします。」と語っていた。なお、申し込みと詳しい問い合わせは片貝公民館☎84―2026へ。

藤塚さん褒賞される
長年の農業委員の功績で

市は市褒賞条例に基づく表彰式を3月10日午前11時から市役所大会議室で開催した。今回の表彰該当は個人3名、団体1でそれぞれに表彰状と銀杯が関市長から贈られた。



藤塚さんは学識経験者として市農業委員会委員を10年以上（来年の7月で4期12年）にわたり、地域の農業の進展、合理化、指導に努め、農地行政の進行に尽力された事により市から褒賞が贈られた。

藤塚さんは「思いもかけぬ賞を受賞して、嬉しいです。これも皆様のお陰です。これからも地域の農業振興に尽くしたい」と語り、隣席していた奥さんも「感激しました」と一言喜びを語っていた。

読み聞かせ会
今年も始まる

「読みきかせ会」では、去る3月18日㈯午後1時30分から片貝公民館二階ホールで、お楽しみ特別企画を開催、楽しいひと時を過した。

なお、4月の読みきかせ会の予定は8日㈯午前10時から、21日㈮午後3時30分から、会場はいずれも片貝ふるさと会館。

空き教室を民具博物館に
福原片貝小校長が協力要請

ヤヨイ大学教育講座終了後、福原博夫片貝小学校々長から「民具博物館」について次の様な話があった。

『片貝小学校も平成12年度に空き教室ができる、その教室を「交流拠点」にし、常時開放しておく「民具博物館」を作り、そこにある民俗資料で、大人と子供が一緒になって作りあげて行く学習を…と計画しております。そこで皆さん方のご家庭にある、生活・農耕・職人用具等の民俗資料を収集整理し展示し、学習に活用。そしてヤヨイ大学のおじいさん、おばあさんの知恵袋をお借りして子供たちに展示民具を使っていたころの日常生活の話や、民具を使っての農作業、遊びなどいろいろなことを教えていただきたい。ご協力をよろしくお願い致します』と呼び掛けていた。なお、民俗資料、民具博物館等、詳しい事については、片貝小学校☎84―2025へ。

忍字亭の活用と自然環境の保護

昨年一年間様子眺めということで十二月で一般使用を閉鎖していた旧佐藤邸けあき園忍字亭もいよいよこの四月から本格的に使用を開始することになった。

先頃行なわれた管理委員会の会合で、今年は四月から来年三月まで通年定例の休日を除いて全面的に開放されることになり、同時に管理人も常駐して便宜を図ることになった。

既にいろんな形でのイベントが計画されているようで今までとは違った使い方がされるものと期待している。使用料金が高過ぎる云々の問題も検討され、改めて新しい料金設定がなされ、申し込み方法も含めより便利な使い易い方法がとられるものと期待したい。聞くところによると町外からの申し込みもあるようで幸先よいスタートである。

残念ながら一部篤志家の寄付を募らないと経費の捻出ができないことで、本来ならそうした煩わしい努力をしなくても協議会等が中心となって予算化を進めることができれば申し分ないと思うが、取り敢えず管理人を置いて通年開放にまで漕ぎ着けることができたわけで、何事も一挙に解決することができなくても今年一年じっくり使用状況を眺め、来年度はさらに充実した方向に進むことができればそれに超したことはないと思う。

もっとも設備の点でもこれで全く完了したわけでなく、各家庭においても昔では考えられなかった充実した生活環境になっていることを思うと、当然冷暖房設備も必要であろうし、夏の夜間使用を考えれば網戸の設置も必要となり、その他いろんな面で設備しなければならないのが次から次へと出てくるものと思う。これらの経費についても一番使用頻度の多い片貝町民が中心となって考えるのはもとよりであるが、行政側も建物だけ与えてこれで終わりというわけでもないので、どういう点ができ、どういう点を行政側にお願いして行かなければならないのか、先ず町民が大いに利用しその上で不足な点は指摘を受け一歩づつでも前進していけばよいと思う。

今までは活性化だとか地域振興の為ということで多くの自然環境が破壊され、人間の生存自体も問題視されるようになってきた。片貝の裏山もかつてのみどり深い自然に恵まれた景観は望むべくもなくなってきた。次世紀はこうした環境問題が中心となり自然環境をどう保護して行くか問われることになる。失ったとはいえ都会と比較すればまだまだ片貝は自然に恵まれた環境にある。

先祖が連綿として引継いできた良き自然や遺産、風習といったものを後世に遺す責務を現代人は担っている。

幸い行政や多くの人の努力によってけあき園忍字亭という自然を含めた遺産を存続することができた。これからはこれを拠り所としてさらに周囲の環境浄化に努め、片貝にきたら自然が豊富だと評価されるようになるのも自然保護運動の一つでもある。

主張

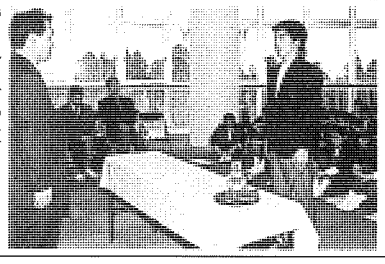
片貝中同窓会入会式
合わせて正調木遣も伝授

片貝中学校同窓会（浅田正平会長）の入会式が去る3月2日㈭午後1時30分から片貝中学校2階多目的スペースで開催された。

この催しは毎年この時期に卒業を目前にした3年生を対象に行っている催しで、今年新同窓会々員になったのは54名（男29名、女25名）で会名は『翠嶂（すいしょう）会』と名付けられた。

入会を祝って、第20回卒業（にれ会）で前PTA会長の安達博栄氏（五之町）の講和があった。安達さんは子供の頃、修学旅行にも行けないほど、身体が弱かったが両親のお陰で、現在はスポーツ好きの人間になった等…自分の体験を語り、「君達は、これからも健康を大切にして、両親への感謝の気持ちを忘れずに、楽しい人生が送れるように、頑張って下さい。」と激励した。これに応え翠嶂会を代表して浅田浩紀君が「私達45名も、先輩の会員に負けない立派な会員になりたいと思いますので、先輩の皆さんのご指導よろしくお願い致します。」と元気よく違いの言葉を述べた。

また、今年も同窓会入会式に引き続き、片貝になくてはならない木遣を、後世に正しく伝えることを目的に活動している片貝町伝統芸能保存会の木遣部が新会員に正調木遣を指導した。生徒たちは同窓会からプレゼントされた、冊子「片貝木遣歌考」を見ながら、元気よく大きな声で、正調木遣に挑戦していた。



小学生に正調木遣伝授
片貝伝統芸能保存会が

片貝まつりを初め結婚式や宴席などで歌われ、片貝になくてはならない存在の木遣を後世に正しく伝えることを目的に活動している片貝伝統芸能保存会が去る3月21日に片貝小学校を訪れ5年生（56名）に木遣の指導を行った。

この催しは、5年生の子供たちが「片貝町の伝統」について色々と勉強している授業のひとつで、今回は芸能についての勉強で、学校からの要請で、芸能保存会々員7名が学校を訪れ、木遣について、生徒たちにわかりやすく話をし、前歌、道中木遣、奉納木遣を披露した後、生徒たちと一緒に奉納木遣を歌ったり、生徒たちの「木遣の作詞作曲者は誰か」「本町二丁目はどこ」「木遣はどんな所で歌われているか」「シャギリの作曲者は誰か」「保存会はどういう目的で、いつ出来たか」「芸能保存会は片貝のほかにもあるか」などの質問に子供たちにわかりやすく答えていた。

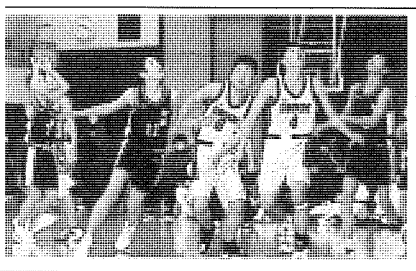
福原小学校々長は「片貝町の伝統に関する授業は、今回だけで終わるのではなく、子供たちの為にも、色々な人達に協力をお願いして、これからも継続して、授業をして行きたいと思っています」と語っていた。

片貝中バスケットボール
能代市で遠征修業

片貝中学校バスケットボール部は、去る2月11日から13日まで、秋田県能代市まで遠征して強化合宿を行なってきた。

片貝町もバスケットボールが伝統的に強い地であるが、能代市もあの能代工業を抱える地であるため、地域をあげてバスケットボールが盛んなまち。加えて舘岡校長の出身地。対戦したチームのひとつ能代市立東雲中学校は舘岡校長の母校。他に能代市立能代第二中学校、山本郡八竜中学校の三校と対戦した。

11日は早朝片貝町を出発、午後一時半過ぎに能代市に到着、能代工業高校の練習を見学した。2日目は八竜中学校体育館で4チームによるリーグ戦を行なった。片貝中は東雲中に41対34、八竜中に58対49、能代第二中に70対46で三戦全勝。ところが13日再び東雲中と能代工業高校体育館で試合を行なうと33対44で完敗してしまった。同行の父母の一人は「メンタル強化が必要と実感した」と語っていた。一行は13日午後7時頃片貝町に帰着した。



かたかい春秋

卒業、別れの諸行事のすぐ直後にやってくるのが、入学、進級、新たな出会いの季節だ。期待と不安のいり混った気持で四月を迎えた人達が多いのではないか。新緑が萌え出し、桜前線が北上する季節でもある。▼例年になく雪消えが遅い年で、若返る日も多い年であったが、春耕への影響はどうであろうか。市当局も要望が出る前に、いち早く育苗組合をパトロール、残雪の多い組合に対して、除雪費の補助を打ち出したとの由。タイムリーな動きを評価すると同時に、万事にこうあってほしいと願うところでもある。▼市民待望の中学校の給食がスタートする。3月27日には平成11年度の中学生が試食会を行なった。三年生にとっては、中学生としての最初で最後の給食であった訳だが、味の方はどうであったであろうか。大人な希望者は明2日が試食会である。市を二分する政争のきっかけのひとつとなった問題だけに、複雑な味を体験する人が多いのかも。▼今、改めて冷静に考えると、自校かセンターかで、あんなに対立する必要はなかったのではないか、とも思う。中学生に対して、給食を以って何を教育したいのか、という哲学のようなものがそこにあったのか。小学生は片貝を含め、全て自校給食をしている。そして今や、歯止めが効かぬ程の飽食の時代である。▼時代の要求と言ってしまえばそれまでだが、給食に教育というより、親の都合、大人の社会変化に合わせる、ということの方を多く求めている人が多いのではあるまいか。あとのまつりではあるが、もっと冷静に対応すれば、一年以上は早い給食開始となっていたであろうに。ともあれ、これを機会に食について考えてみよう。

県読書感想画コンクールで 駒村さん（片貝中1）が最優秀賞

本田君、丸山さんも優秀賞

第11回読書感想画コンクール新潟県審査の結果がこの程、新潟県中学校図書館協議会から発表があった。

それによると新潟県の最優秀賞に片貝中学校一年の駒村遥さん（八島）が受賞した（写真中央）のを初め二年の本田龍輔くん（一之町三区、写真左）と二年の丸山寛奈さん（新屋敷、写真右）の二名が優良賞を受賞した。

片貝中学校は今回初めて読書感想画コンクールに作品を応募して3名が入賞。また、駒村さんの作品が読書感想画中央コンクール全国審査で奨励賞を受賞した。なお、最優秀賞と優良賞の本の題名と感想画の内容は次のとおり。

▽最優秀賞

「叔父さんは大泥棒」

一年　駒村　遥

私は、「家族カタログ」という本に収められている「叔父さんは大泥棒」という物語について感想画を描きました。なぜかというと、「家族カタログ」の中に収まっている物語の中で、最もイメージしやすかったからです。

この絵は全体的に黒が多いので、色を区別したり、線をはっきりさせるのがとても大変でした。特に、人間を描いて、背景の色と、服や髪の毛の色とがまざらないように色づけするのが大変でした。しかし、うまくいって良かったです。

▽優良賞

「大きな湖」

二年　本田龍輔

僕がこの絵で一番力を入れたところは木です。白樺が月の光を浴びて、どんな風に光っているのかどう塗ろうか迷いました。でもうまくできたのでよかったです。あと湖に映った月がぼやけているのがうまくできてよかったです。

「黒い雨」

二年　丸山寛奈

黒い雨が数えきれない多くの人々の命を奪っていく。そんな中で生きていく人々の思いに心をうたれ、描きました。

自分で想像したことを、描いて表現するのはなかなか難しく苦労しましたが、自分なりにがんばりました。

佐藤家の功績を詳述する

学生時代佐藤家を訪ねた田所氏

片貝公民館主催によるヤヨイ大学教育講座が、去る2月25日(金)午後1時30分から、忍字亭2階広間に約40名が参加して開催された。

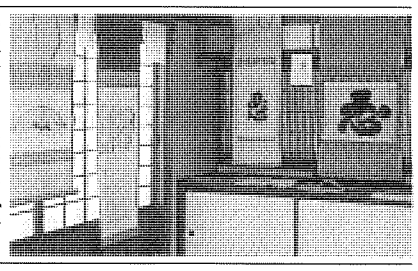
当日は、大学生の頃、何度も佐藤家を訪れ、卒業論文にまとめるなど、佐藤佐平治家の歴史や業績に詳しい田所和雄さん（長岡市）による「片貝と佐藤家の歴史＝忍字亭のルーツを訪ねて」の講演があった。

田所さんは昭和40年から52年までの13年間社会科教諭として小千谷西高校に赴任、平成4年長岡高校を最後に定年退職。「小千谷市史」、「新潟県史」などの編さんに携わり、江戸時代の佐藤家の酒造業を紹介。「人づくり風土記」には佐藤家の救援活動を紹介。

田所さんは講演の中で、江戸時代の佐藤家に学ぶものは多くあるが、なかでも越佐最大の酒造家としての先見性・積極性・合理性など企業家の精神、そして日頃は倹約・非常備蓄の心構えで、飢餓時には大量、無差別の窮民救援活動を行う名利を越えた社会奉仕の精神など…と語っていた。

なお、主催者の吉原公民館館長は「今日の様な有意義なお話をもっと沢山の人から聴いてもらいたいので嬉かくなったら再度田所先生をお招きして、講演会を開催したいと思っていますので、多くの参加を…」と語っていた。

また、この講演会に合わせ、忍字亭の「松の間」では佐藤家ゆかりの書や像など約30点が展示公開されていた。



リサイクル活動を今年も始める

資源の有効活用とゴミ減量化を目指して地道な活動を展開している「リサイクルかたかい」では、今年も毎月第一日曜日に、恒例のリサイクル活動を片貝支所前で実施する。

「今年の第一回目のリサイクル活動は、明日（2日）の日曜日午前9時から9時30分まで実施します。集める物は昨年と同じく、発砲スチロール（さっと洗って水を切って出す）、乾電池、ボロ布、新聞紙、ダンボールなどを集めますので、今年も多くの方々のご協力をお願い致します」と呼び掛けている。

給食センター完成

明2日見学会

約7億2千万円で千谷地内の市立すみれ保育園の隣の市有地に完成した、給食センターは、外部との出入口にエアカーテン、調理室の出入口にエアシャワー、調理場の床に水を流さないドライシステム、食材ごとに加工ラインを分けるなど衛生面に細心の注意を傾けた施設となっており、4月10日から一日約千四百食の給食が作られ、2台の保冷車で南中を除く市内4中学校に配送する。また、この施設は一日に最大二千食を作る能力がある。

市では各地で給食の市民試食会を開催する。片貝地区でも、明日（2日）日曜日午前11時30分から午後1時まで片貝中学校で開催。当日は食券が必要。

尚、2日午前9時から午一後3時まで同施設は開放され自由に見学できる。

食生活の大切さを講演

河内さくらさんがJA片貝町で

去る3月5日(日)午前9時からJA片貝町三階ホールでJA片貝町女性部（五十嵐照美部長）の第44回通常総会が開催された。

総会では部員60名前後が出席し、平成11年度の事業報告、決算報告に続いて、平成12年度の予算案と事業計画案が審議され、組織活動、生活活動、農政活動、文化教養活動、健康管理活動、高齢者福祉活動の5項目16種類の事業計画と予算が承認された。

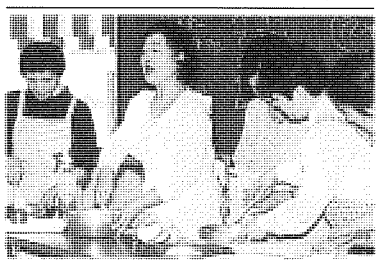
総会終了後JA片貝町と女性部の共催でテレビなどで活躍している河内さくら氏（略歴は小紙3月1日発行号に記載）による講演会が行われた。

記念講演は一般公開として午前10時30分から始まり部員と一般聴講者合わせて250名前後（予定外の多さに関係者は驚いていた）が出席して河内氏の「いきいき人生、すこやか人生」についての講演に耳をかたむけていた。

自分の家族の話をしながら、方言を使いユーモアを交えた話の中で河内さんは「いきいき人生、すこやか人生を過ごすには、元気な日々の生活が大切です。あなたがた主婦のみなさんはそれぞれのご主人を大切にして、家庭をキチント守り色々なグループに参加して人の噂をしない、多くの友達を作り豊かな人生を送って下さい。また、私達が生きて行くには、食生活もたいせつです。栄養学では一日の食事を朝3、昼2、夜1の割合でキチント食べるのが理想とされています。

家庭ではベータカロチンの多いニンジン・カボチャ・菜っ葉などの緑黄色野菜や牛乳、玉子などを使用して、手作りの家庭料理作りを朝、昼、夜と一日三食キチント食べることが、元気で長生き出来る秘訣」と語っていた。

講演終了後さくらクッキングルームが開かれ、「アーモンドバター・フルーツのせ」、「アーモンドあえ」、「フルーツスパゲッティ」の三種類の実演料理が行われ、参加者全員で試食していた。



片貝ヒューマンウオッチング

同窓会々長の浅田さん

片貝中学校同窓会々長の浅田正平氏（45、五之町）は、㈱浅田精機の社長でもある。

県立長岡工業高等学校を卒業して、㈱第一測範製作所に入社、昭和55年に退社して父の正二さんと一緒に会社を創業した。小千谷鉄工協同組合理事、同青年会の木曜会々長としても活躍している。

家族は両親、奥さんの悦子さんとの間に一男一女が授かり6人家族。

昨年、同窓会々長に就任した。「同級会の片貝、と言っても良い程、片貝は同級生の絆が強い町。各年代毎の強い絆をひとつに集めるのが同窓会、うまく束ねれば一より大きな力が発揮出来るのでは。そんな同窓会作りを心がけたい」と抱負を語る。

自身が所属するつぐみ会の話題になると「同級生と飲む酒は何でこんなに旨いのか！つぐみ会メンバーとなるように生んでくれた両親に感謝したい」とその入れ込み度は尋常でない(?)。

そして「近い将来、親を招待しての〝親子同級会〟を開けると良い」と続ける。

片貝まつりに対する思い入れも強い。「片貝まつり大好き。誇りに思っている。若者が本当にしっかりやってくれると思う。しかし、成人いじめだけは絶対にダメ。少子化が顕著で将来が心配、でも色々工夫して行けば何とかなるのでは」。

大好きな片貝町ではあるが、変えるべき点もある、と冷静にとらえている。そのひとつが、〝声の大きな人〟に大勢が流れやすい、という点。「多くの人の意見を聞き、しっかり論議をする。決めたら協力する、という町のルール、良識が欲しい」とズバリ。そして「〝難儀なことは協議会〟という風潮も改めるべき。提案型の町造りをして行けたら、もっと良い町になるはず」と期待を語る。

趣味は「鳩レース」というから意外（失礼）。小学生だった東京オリンピックの開会式で、多くの鳩が放たれるシーンは大勢の人を感動させた。これがきっかけとなり鳩飼育ブームとなったのだそうで、浅田少年もその一人。以来35年間飼育している。「1000kmもの距離を一昼夜で帰巣する鳩にロマンを感じる」と少年時代の瞳で語ってくれた。

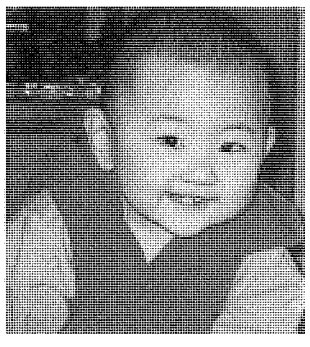
ハロー・ベイビー

○安達杏樹（あじゅ）ちゃん（稲場）
パパ慎介さん（26才）
ママ寿美子さん（25才）
第1子長女
平成10年11月28日生
現在の体重11kg身長81cm

Q名前の由来
A杏の花のようにやさしく、杏の樹のようにお日様に向ってすくすく育つようにと願って名付けました。

Qお子さんの様子
Aかけっこが大好きで、外に出ると百m走の選手のように走り回ります。

Qどんな子に育って欲しいですか
Aのびのびと健やかに、そして大らかな心を持って人と接する子に育って欲しいです。



おばあちゃん

小学中学年の部市長賞

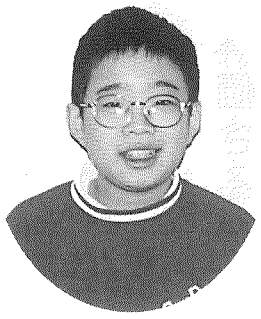
＝平成11年度「明るい家庭つくり」「家庭の日」に関する作文コンクール＝

片貝小学校　四年　新野　吉平

「今日はお天気になるかなあ。」

おばあちゃんは朝六時に起きてそうじを終えると、外に出て空を見ながら深こきゅうします。そして家に入っておばあちゃんとぼくのふとんをたたみます。実はおじいちゃんが亡くなってからぼくは、おばあちゃんと一しょに二人でねています。おばあちゃんがさみしくないようにしてあげたいからです。

おばあちゃんは春になると、田んぼと畑へ出かけてお米と野菜もたくさん作ります。野菜は、春にえだ豆ととうもろこし、じゃがいも、キュウリ、にんじん、ナスなどを植えます。おばあちゃんが言うことにはおばあちゃんが作っている野菜の品種は、三十種類以上あるそうです。ぼくは、「すごくたくさん作っているんだなあ。」とびっくりしてしまいました。そして夏になると、実った野菜を畑から持って来て、ゆでたりにたりしてぼくたちに食べさせてくれます。その野菜は無農薬です。ぼくたちの健康を考えて努力して作ってくれているのです。秋になると白菜やねぎや里いもなどを、いっぱい家に持って来て、作業小屋に取りこんでおきます。ぼくたちは、何も心配しないでおいしい野菜をたくさん食べることができます。ぼくも時々畑について行って、いろいろな野菜も見なくになるとお父さんやぼくたちも手伝って、車で家まで野菜を運びます。おばあちゃんは、



「いつ雪がふってもいいね。」と喜んでいます。寒くなってくると、おばあちゃんはかぜをひかないように本を読んだり新聞を見たりしています。みんなのことを考えてくれるおばあちゃんがぼくは大好きです。

ぼくはおばあちゃんの仕事のこしやかたをもんであげます。おばあちゃんは気持ちよさそうです。せ中は親指でおします。ぼくが乗ると重いので手をグーにしておしてあげます。終わるとおばあちゃんが、「ありがとう、気持ちよかったよ。」と言ってくれます。それを聞くとぼくは、うれしくなります。おばあちゃんも顔がすっきりしているように見えます。夜は八時になったら、毎日部屋にお茶を一ぱい持って行ってあげています。おばあちゃんはそのお茶を、いつもおいしそうに飲んでくれます。九時になったら、二人ともねます。

おばあちゃんはおじいちゃんが亡くなってさみしいかも知れないけど、ぼくがいれば少しは安心するかも知れません。いつまでも、おばあちゃんが元気で長生きしてくれれば、ぼくはうれしいです。

あい間に、こしやかたをもんだりおしたりしています。まずかたをたたき、次にもみます。それから首をもんであげます。おばあちゃんは気持ちよさそうです。せ中は親指でおします。ぼくが乗ると重いこしは、ぼくが乗ると重い